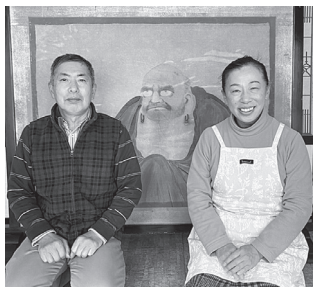


百年続く、安田駅前の旅館です

旅館 安田館



代表 阿部茂樹氏
奥様 さゆり氏
柏崎市安田1724-3
Tel.22-4326

まん延防止等重点措置期間中の一月下旬、安田駅前の「旅館安田館」で、ご主人の阿部茂樹さん・さゆりさんご夫妻にお話を伺いました。

安田館は、百年以上続く旅館。客室は5室、法事や宴会等もされています。創業は、明治三十三年十二月。田んぼだった安田地区に同三十二年信越線の駅ができ、町が形成されたそうです。阿部酒造の五男であった阿部秀吉さん（現主人の祖父）が、安田駅前で茶屋を開店したことが始まり。タクシーが常時二台待機していて、安田館はタクシーの営業所でもありました。

ご主人の茂樹さんは昭和三十三年生まれ。田尻小、田尻中（現東中に統合）、柏崎高校を卒業後、東京の栄養専門学校と経理の専門学校に進

学。卒業後実家に戻られ、給食センターに勤められました。お父様が体調を崩され、旅館を継ぐことになりました。さゆりさんは、市内平井出身で同じ小中学校の二歳年下。東京の短大卒業後、東京でしばらく働き、結婚で安田館に入られました。一般家庭の家から嫁いでこられたのは、旅館の接客の仕方身につけるには時間がかかったそうです。

現在、お二人で安田館を切り盛りされています。調理は茂樹さん、接客・掃除はさゆりさんの担当。「どちらが欠けてもできません。一人ずつの力じゃなくて、二人で補いながら旅館をやっています」と、互いを思いやり、信頼し合っています。しかし、「コロナ禍で、宿泊客が激減。でも、初代も先代もその時代の時々でゼロから再スタートしてきた。三代目の私達にとっては、今がその時なのではないか、と受け止めています」とのこと。昨年一昨年は、県の感染症対策認証（宿泊施設）のための設備整備にご苦労されたそうです。コロナで休業が増えたことで見つけたお二人の楽しみは、プチドライブです。名水を訪ねて汲みに行き、辺りを散策したり、途中、通ったこ

とのない道を選んでドライブしたり……。毎朝、一番茶を当主が入れ、仏壇と神棚と恵比寿様にお供えをし、家族もいただくというのは代々受け継がれてきたこと。今はこの名水を使っているそうです。

「当館は、昔から工事関係者や富山の葉売りなどの行商の方の定宿で、遠出をしても安田館で、と利用して下さる馴染みのお客様はありがたいです。宿で一番楽しみなのは食事。疲れて帰って来られたお客様に喜んでいただけるように、献立作りには特に気を遣っています。くつろげる、居心地の良い宿を心がけています」

大正時代の玄関を残し、先代が昭和に建てた建物。昭和のかおりする駅前旅館。ご夫妻の温かなお人柄と、歴史の流れを感じる建物・町並みは、懐かしく温かい気持ちにさせてくれます。（十人衆（圓）（黒）取材）

